

■木製の楽器について

温度湿度の調整

木製の管体やパッドは天然の素材でできており、温度や湿度の影響を受けやすいので、定期的な調整が必要です。

以下のような症状が現れた場合は、お買い上げ店または弊社サービスセンターへご相談ください。

- 接合部がきつくなった。
- 音が出にくくなった。
- パッドの表面が切れた。
- キーの雑音が大きくなった。
- 管体が割れた。

管体の割れ

木製の管体は温度、湿度の影響で割れる場合があります。以下のことに気をつけると、割れの予防になります。

- 急激な温度変化を避ける。
- トーンホールや、ベルの下から水が出ないように、こまめにスワブを通す。
- 使用後も水分を良く取り、ケースに入れて保管する。
- 特に新しい楽器は長時間使用しない。

割れてしまっても、早期に的確な修理をすれば問題なく使い続けることができますので、お買い上げ店または弊社サービスセンターへご相談ください。

■グリーンラインについて



オーボエ、クラリネットの主たる原料であるグレナディア材の粉末を特殊加工した素材です。

- 通常の木製の楽器と比べて材質が均一で、比重の違いによる独特の音色、吹き心地があります。
- 温度、湿度の変化による影響が緩やかです。
- 楽器の素材として優れた特徴と強度を持っていますが、衝撃を加えると接合部が折れる場合があります。転倒や落下、譜面台等との接触に充分ご注意ください。
- 接合部がきつくなった場合はお買い上げ店または弊社サービスセンターへご相談ください。

■銀めっき仕上げについて

めっき加工されている金属部分はその性質上、ご使用にともない変色、摩耗します。

また、ゴム製品、石油製品、排気ガス、火山性ガスなどに含まれる硫化ガスにより変色することがありますが、ご使用には影響ありません。

金属部分の腐食、摩耗が激しい場合はお買い上げ店または弊社サービスセンターへご相談ください。

特に一部のブランドのハードラバー（エポナイト）製マウスピースは、その性質上、製品が新しい間は化学変化の作用により、マウスピースキャップやリガチャー、または楽器本体の銀めっき部分を変色させる事があります。

新しいハードラバー製マウスピースは、ハードラバーの成分が落ち着くまで（個体差はありますが、数か月間）、演奏時以外は銀めっきキーのクラリネットとは別に保管する事をおすすめいたします。

なお、弊社のクラリネット付属の純正マウスピースはハードラバーではなく樹脂製のため、上記の現象は発生しません。

弊社といたしましては、弊社の純正以外のマウスピースに起因する銀めっきの変色につきましては、メーカー保証をいたしかねますので、あらかじめご了承ください。

■注意事項

- 本来の用途以外に使用しないでください。
- 幼児の手の届かないところに保管してください。
- 小さい部品があるので飲み込まないようにしてください。
- 針のように鋭い部品を使用していますので、扱いには充分注意してください。
- 破損がある場合は、使用を中止してください。

BUFFET CRAMPON

株式会社 ビュッフェ・クラムポン・ジャパン

〒135-0016 東京都江東区東陽4-8-17
TEL.03(5632)5511 FAX.03(5632)5526

営業時間 10:00～18:00(日・月曜日、祝日定休)

ショールーム TEL.03(5632)5728

サービスセンター TEL.03(5632)5524 (10:00～17:30)

取り扱い説明書

〈ビュッフェ・クラムポン〉

クラリネット



BUFFET
CRAMPON
PARIS



掲載コンテンツの内容、テキスト、画像等の無断転載を固く禁じます。

BUFFET CRAMPON

CLARINET

クラリネット



掲載コンテンツの内容、テキスト、画像等の無断転載を固く禁じます。

■組み立て

キーに過度な力が加わらないよう、注意しながら組み立てます。また、各連結キーが正しい位置にくるよう注意して、まっすぐ差し込んでください。

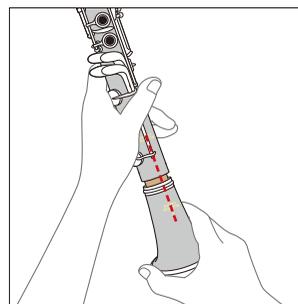
1.各接合部のコルクに、指で薄くコルクグリスを塗ります。

※コルクグリスは毎回塗る必要はありません。楽器が新しいうちや、組み立てる際にギシギシ音がするような場合にご使用ください。

2.ベルと下管を組み立てます。

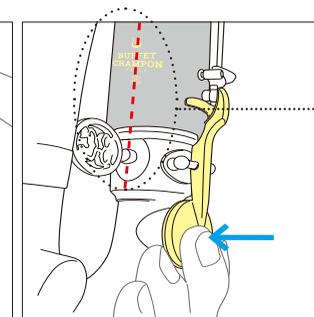
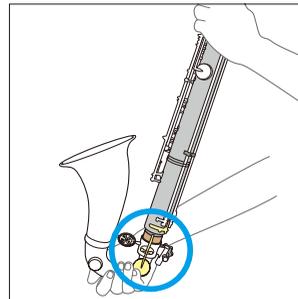
※E♭クラリネットには上下管はありません。

【クラリネット】

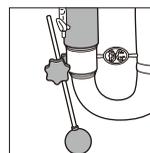


ベルのロゴマークを正面に合わせます。
キーに過度な力が加わらないよう注意しながら組み立てましょう。

【バスクラリネット】



バスクラリネットは連結キーが正しく連動するように、下管とベルについているキーの位置を合わせます。(バスクラリネットto LowCの場合はLow Cのキャップを押さえながら組み立ててください)



アルトクラリネット、バセットホルン、バスクラリネット、コントラアルトクラリネットはスタンドが付きます。

それでも接合部がかたく組み立てにくい時は、無理せず専門の技術者に調整してもらいましょう。

コルクグリスは、メーカーによってコルク部分が固くなることもあるため、弊社製品をお勧めします。



“ディヴィンヌ”と“トスカ”のバスクラリネットのネック部分は新素材の合成コルクを使用しております。専用のコルククリームをご使用ください。



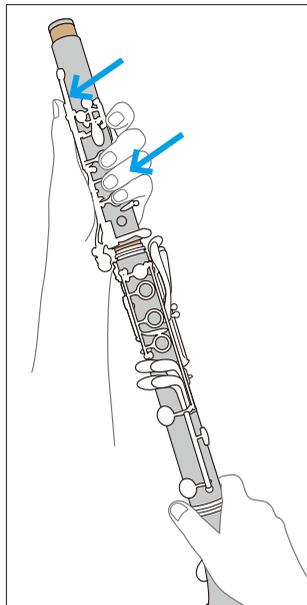
※新素材の合成コルクはコルクグリスを塗ると劣化が早まります。(コルクグリスを塗る必要はありません。)

▶ベルの開口部が楽器の正面を向くよう、ベルと下管にあるロゴマークを目安に組み立てます。

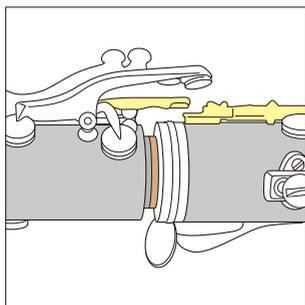
3.上管と下管を組み立てます。

このとき連結キーがぶつからないよう、上管のリングキーを押さえます。上下管の連結キーが正しく連動するように、キーの位置を合わせてください。

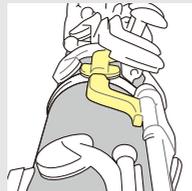
[クラリネット]



パッド破れ防止のため、組み立ての際は上管のレジスターキーとトリルキーを避けて握ってください。少し左右にまわしながら差し込みます。

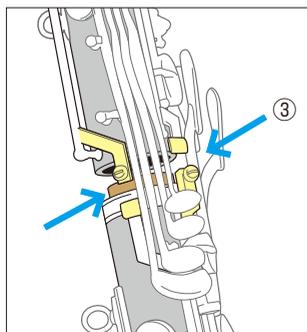


▶ 連結キーをまっすぐ合わせます。上下管の連結キーは下から見ると合わせやすくなります。

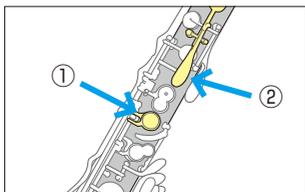


"E13"および"C13"に付属している調節可能指かけの止めねじ(リング)は、ストラップ用ではありません。

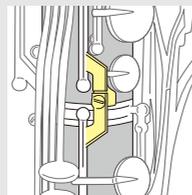
[バスクラリネット]



バスクラリネットの場合は上管にある、下管と連結するE^b/B^bキー(下図①)と上管のAキー(下図②)を押しながら連結キー(左図③)をまっすぐそろえて組み立てます。▶



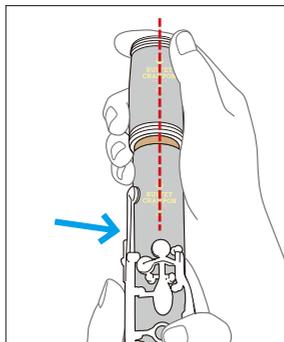
▶ 連結キーがうまく連動するように、上管のキーを押しながらそろえてください。出荷時には、E^b/B^b連結キーをまっすぐ直線にそろえた状態でバランス調整されています。



※"プレステージ"および"トスカ"バスクラリネットには連結キーが2つあります。

4.上管とバレル(ネック)を組み立てます。

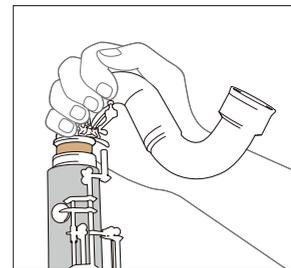
[クラリネット]



バレルと上管のロゴマークを合わせます。

パッド破れ防止のため、組み立ての際は上管のレジスターキーとトリルキーを避けて握ってください。

[バスクラリネット]

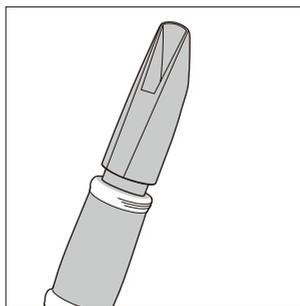


上管とネックを組み立てます。



バスクラリネットのネックの先を持って組み立てると、ネックが曲がる原因となります。

5.バレルにマウスピースを差し込みます。

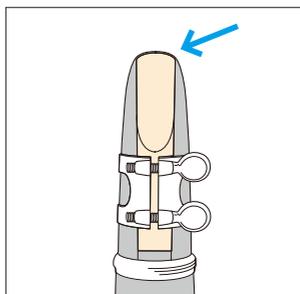


マウスピースを差し込む際は上管のレジスターキーとトリルキーを避けて握ってください。

アルトクラリネット、バセットホルン、バスクラリネット、コントラアルトクラリネットのマウスピースの組み立ての際は管体を持たず、しっかりとネック部分を持ってマウスピースを差し込みます。

6.リードを取り付けます。

マウスピースにリガチャーを取り付け、あらかじめ湿らせたリードをリガチャーで固定します。リードはマウスピースに対してまっすぐになるようにしてください。



リードの先端は大変薄くなっているため、破損しないよう注意しましょう。

▶ リードはマウスピースの先端がほんの少し見える位置が標準です。

！音がでる大事な部分です。やさしく注意して取り扱いましょう。

演奏しないときは、必ずキャップをかぶせておくようにしましょう。

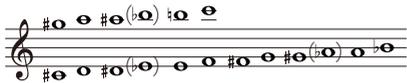
■ピッチの調整

〈ビュッフェランポン〉のクラリネットは、常温(20℃前後)の室内である程度演奏し、楽器が温まった状態で、各接合部を少し抜いて正常なピッチが得られるように設計されています。状況により、各接合部を抜き差ししてピッチを合わせてください。

▶息を吹き込み、急に管体を温めることは、割れの原因にもなります。

[クラリネット]

バレルと上管の接合部を抜いた場合
全体のピッチが下がりますが、
特に上管の音が下がります。



上管と下管の接合部を抜いた場合
下管の音と、「ソ」まで下がります。



▶上管と下管の接合部を抜いたとき、
連結キーがずれないように注意
しましょう。

下管とベルの接合部を抜いた場合
主に最低音「ミ」とレジスターキーを
押した「シ」が下がります。



[バスクラリネット]

ネックのチューニングスライドを抜いた場合
全体のピッチが下がります。



掲載コンテンツの内容、テキスト、
画像等の無断転載を固く禁じます。

■お手入れ

【使用時】

楽器が温まるまでは5分以内に、温まってから5分～10分を目安に
スワブを通して、管内の水分を取ってください。

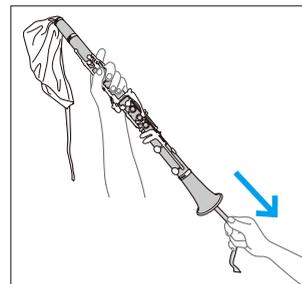
▶冬場など、冷えすぎた楽器を使用する
場合は、徐々に室温になじませてから、
演奏するようにしましょう。

○スワブを広げ、紐もきちんと伸ばしておきます。マウスピースを抜いて
バレルの方から紐を入れ、ベル側からゆっくり引き抜いてください。

▶付属のスワブは洗って繰り返しで使用
いただけますが、毛羽立ってきたら
新しいものと取替えましょう。

〈スワブの洗い方〉

中性洗剤または石けんを使い、
ぬるま湯で手洗いしてください。



グリスなどの汚れが付いたスワブは使用
しないでください。トーンホールに汚れが
溜る原因になります。また綿のスワブは
ほこりによる汚れが溜まる原因になりま
すのでおすすめしません。



○途中で引っかかった場合、無理に引っ張らず、
反対側の紐を引いて戻してください。

○使用中、管内に水が付いた状態でトーンホールが下向きになると、
トーンホールから水が出る原因になりますのでご注意ください。

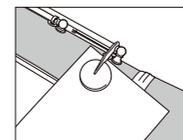
【かたづけ時】

○マウスピースをはずし、バレル上部からスワブを通して、管内の水分を
取ってください。

ぬれたスワブやガーゼはケースの
中に入れてままにしないでください。

○接合部の水をガーゼなどで拭き取ってください。決してスワブを使って
接合部の水を拭きとらないでください。スワブにコルクグリスなどが
付くと、それが管体に付着し汚れとなり、ゴミがたまる原因となります。

○トーンホール、パッドに水滴がたまっている
場合は、吸い取り紙などを軽く数回は自分で
水分を吸い取って、そのあとスワブを通して
ください。



○管体、キー表面を柔らかい布で拭き、指紋や汚れを取ってください。

このとき、キーやバネに過度な力がかからないようご注意ください。▶針バネや金属部分で怪我をしない
ように注意しましょう。

